



(下) 場所場所で、巫女が荘厳な舞いを奉納する。
 (中) 祭りでは猿田彦が道案内として前を歩く。
 (右) 狭い道でも、右へ左へと豪快に練り歩く、みこしのかつぎ衆。



(左) みこしは祭りでの見もの一つ。大きな声で練り歩き、観衆の拍手をさそう。
 (中) 大名が本陣に入るときに、先導を行ったやっこを表現。
 (下) 神事は厳かな雰囲気漂う。



日本晴れの空の下、大竹祭の総勢約千人の行列が、大竹駅前スベイン通りから元町4丁目まで練り歩き、沿道の観客を楽しませた。掛け声の息も合った道中やっこ。くるくるつと小気味よく踊る毛やりが青空に映える。勇壮なみこしやあでやかな華みこしが続き、行列の最後を飾る、各地区の意匠を凝らした山車が観客の目を引いた。【22ページから山車の写真も掲載】



(右) 威勢のいいかけ声で練り歩く女性だけの華みこし。
 (左上) 御所車の先端にある龍に、今年収穫された稲をくわえさせ、豊作を感謝する。
 (左下) みこしと着物が祭りを彩る。

ア、ヨーイナ

アイヤサーノサー



(上) 元気いっぱい表情で、文福茶釜の山車を引く元町1丁目自治会の子どもたち。
 (下) 獅子舞に楽しんでる子どもたち。息災の願いをする。子どもにとっては近くで見る獅子はとっても恐ろしい。

大名行列の先導役を務めるやっこを再現。真剣な表情と独特のしぐさで進んでいく。